

グラスガードシリーズ 施工説明書 施工業者様用

施工する前に

●ご用意いただくもの

- ・グラスガード(本製品)・専用施工ピン(別途)・専用施工テープ(別途)・ハンマー・裁ちばさみ



土地についてご確認ください。

- 施工しやすい状態かどうか。
雑草が繁茂している場合、あらかじめ草刈りをおこなうなどして施工しやすい状態にしてください。
また、地面に著しい凹凸がある場合、出来る限り平らにしてからシートを施工してください。
平らにせず施工すると、シートが破れたり、シートを踏んだ際に、ケガをする恐れがあります。
- 常に強風が吹いている土地かどうか。
本説明書裏面の強風懸念のアドバイスをご検討いただく等、必ず対策を講じてください。
ただし、アドバイス通りに施工していただいても自然条件等によりシートが飛散する可能性があります。
- 土地自体の水はけが良いかどうか。
土地の土自体が水を通にくい場合、シート施工後に水溜まりができる可能性があります。
その場合、土地の水を流す方法をご確認ください。
水はけが悪いまま施工しないください。ピンの劣化が早くなり、ピンの抜け、シートのめくれ、飛散につながる恐れがあります。
- ピンが効きやすい土地かどうか。(火山灰等を懸念)
土に指を入れたときにすなりと入るかどうかを目安にしてください。
入りやすい土地の場合、ピンが抜けやすいことがあります。
- その他
・地下茎雑草は根まで確実に処理をしてください。根が残っていた場合、シート下で発芽、成長し、シートを押し上げたり、突き抜けたりすることがあります。また、シートの押し上げはシートの破れやピンの浮きにつながる恐れがあります。
・シートを部分的に施工した場合、シートを施工していない部分で地下茎植物が発生すると、地中からシート下へ侵入、発芽、成長することでシートを押し上げたり、突き抜けたりすることがあります。そのため、シートを敷地全面張りするか、シートを施工していない部分をこまめに除草してください。
・建物まわりで使用する場合、埋設管などに打ち込まないでください。
・作業者に危険が及ぶような急傾地では施工しないでください。

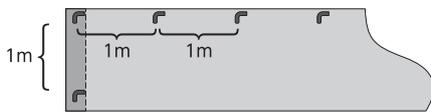
標準施工方法

1. 平たんに施工する場合

※ピン打ちは浮きのないようにしっかりと打ち込んでください。

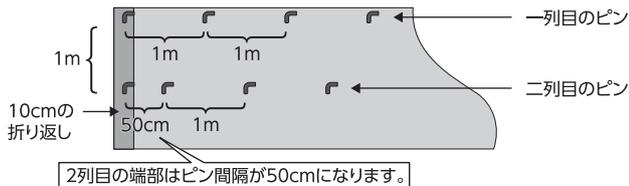
(1) 1列目のピン打ち

- ・シート短辺を10cm以上折り返し、折り返し部分の上からピンをハンマーで打ち込んでください。
このとき、折込場所はシート端部より5cm程度内側を目安に打ち込んでください。
※シートに入っている2本のラインを参考にしてください。
- ・シート長辺を長さ方向に1m間隔でピンを順次打ち込みます。
※シート長辺は折り返す必要はありません。
※ピンはシート端部より5cm程度内側を目安に打ち込んでください。
※シートを5m程度ピン打ちし、引っ張りながらシートを広げると施工が容易です。



(2) 2列目のピン打ち (幅2m品のみ)

- ・2列目のピンは1列目と平行になるように打ち込みます。このとき、1列目のピンの間に打つようにしてください。

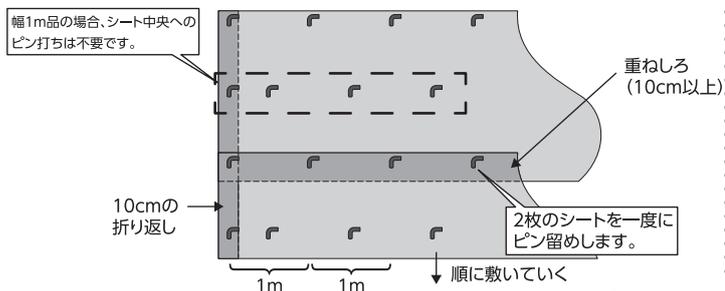


(3) シートの重ね合わせ | 幅方向

- ・2枚目のシートは1枚目のシートと10cm以上重ね合わせて施工してください。
※2枚目のシートも1枚目と同様に短辺は10cm以上折り返すようにしてください。
- ・ピンを1枚目のシート同様、1m間隔に打ち込んでください。
このとき、必ずシートの重ねしろの上をピンで打ち込んでください。
- ・2列目のピンについても、1枚目のシートと同様に打ち込んでください。

以上の工程を繰り返し、施工をおこなってください。

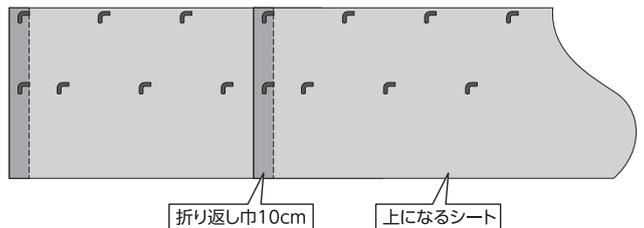
※下図は幅2m品の場合を示しています。(幅1m品も同様です。)



裏面もご覧ください。

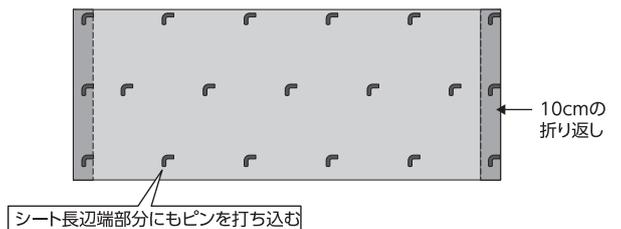
(4) シートの重ね合わせ | 長さ方向

- ・シートを長さ方向に重ね合わせる場合は、重ね合わせたときに上側になるシートの端を10cm以上折り返して重ね合わせ、(1)、(2)の要領で施工してください。(イラストは幅2m品の場合のイメージです。)



(5) 端末の処理

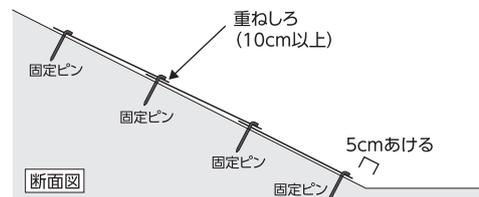
- ・シートの端末は張り始めと同様にシートの端を10cm以上折り返し、折り返し部分にピンを打ち込んでください。
最後のシート長辺端部にもピンを打ち込んでください。
※下図は幅2m品の場合を示しています。(幅1m品も同様です。)



2. 傾斜地に施工する場合

基本的に「1.平たんに～」の施工方法と手順は同様です。

- ・斜面の下から順にシートを施工してください。
斜面の一番下とシートの端は5cmあけるようにしてください。
⇒トラクターのスクリューにシートが巻き込まれるのを防ぐため
※必要に応じてあける広さは変更してください。
※トラクターが入らない場所ではあけなくても構いません。

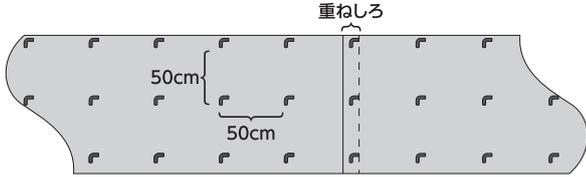


1. 風の強い場所への施工について

施工する土地によって、常時強風が懸念される土地につきましては、以下のようなピンの増し打ちや、テープでの重ねしろ目張り等対策をご検討ください。
標準施工方法と比較してめくれの危険性が軽減されます。

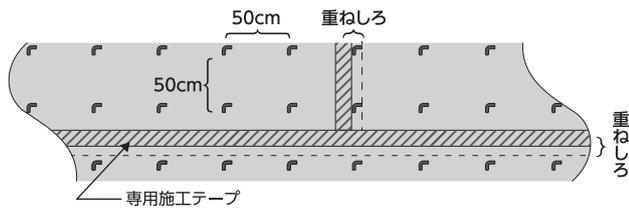
(1) ピンの増し打ち

標準施工方法において、1mになっているピンのピッチを50cm毎に増し打ちします。



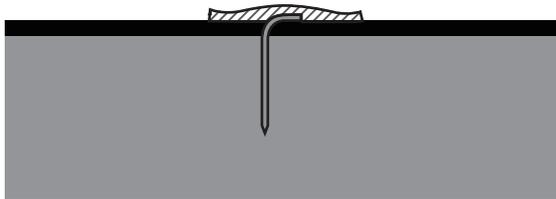
(2) 重ねしろの目張り

重ねしろを専用施工テープにて目張りします。重ねしろへの風の流入を防ぐためです。



2. ピン穴からの防草対策

ピン穴からの防草対策については、ピンの頭に専用施工テープを貼り、目張りすると、そこから生えてくる雑草を防ぐ効果が期待できます。

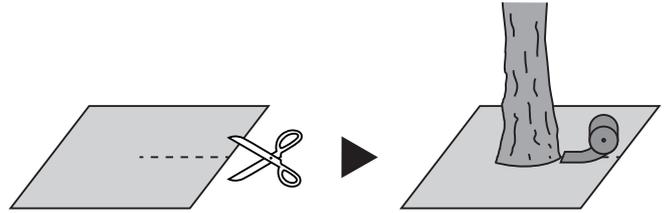


3. 障害物への納めについて

施工箇所に樹木や岩等の障害物がある場合、以下のような納め方をご検討ください。

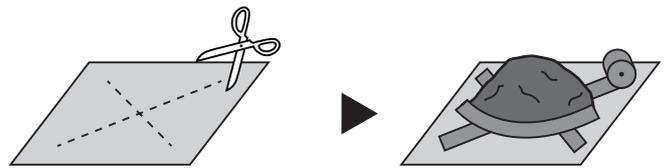
(1) 樹木など比較的直径が小さいもの

シートに切れ込みを入れ、障害物の周りに這わせて納めます。入れた切り込みはテープでつなぎます。



(2) 切り株や岩など比較的直径が大きいもの

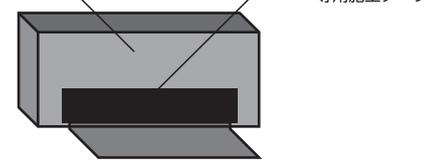
シートに切れ込みを入れ、障害物の周りに這わせて納めます。入れた切り込みはテープでつなぎます。



4. 端部の処理

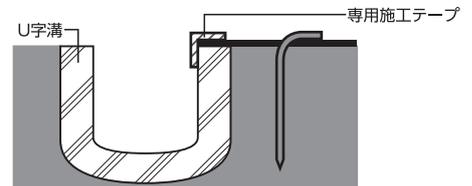
(1) 基礎の取り合い

コンクリート壁面等



(2) U字溝との取り合い

シート端部とU字溝を専用施工テープで接着



●施工後、経過を観察し以下のような場合は、効果持続のためにメンテナンスをおこなってください。

【留意点】

- **ピン穴・シート重ね部・シート端部・切り込み部から雑草が発生したとき。**
雑草はわずかな光が入るだけでそこを目指して成長していきます。それらの草が確認された場合は、随時除去していただくことをおすすめします。ツル系の草や横に広がる草がシートの上で葉を伸ばしシートが雑草で覆われたように見えてしまいます。
- **シートの穴あき、破れ等が発生した場合。**
シート上を不特定多数の人間が走ったりして無理な力がかかる、もしくは突風などが原因で破れが発生することがあります。またシート下にとがった石や切り株があったり、車が走行したり、タバコのポイ捨てなどが原因でも破れが生じることがあります。それらの場合、専用施工テープで補修するか既施工のシート上に再度シートを重ねるなどの補修をしてください
- **シート上の堆積物について。**
風によって飛来した土や、施工箇所の植木等の落ち葉が堆積した場合は定期的に除去をお願いします。それらが腐葉土の役割を果たし、飛来した雑草の種子が生育することがあります。
- **専用施工ピン・専用施工テープについて。**
地中に基礎や石などがあり、ピンが浮いてしまった場合は打ち直しをおこなっていただく等の対応をしてください。テープが剥がれてしまった場合は貼り直しをおこなってください。

施工後の留意点

安全のためにお守りください。

注意 誤った取扱いにより傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

- [してはけない]を示します ● 屋上やベランダなど風の強い場所への施工はできません。シートがめくれたり、飛散する恐れがあります。
- 風の強いときに施工しないでください。
- 目的用途(防草シート)以外での使用はしないでください。

品質保証について

本製品は屋外にて使用頂く防草シートです。施工される地域や自然条件等が異なりますので、施工後の製品保証は致しません。

お願い

- 本説明書に掲載している施工方法で施工いただいても、自然条件等によりシートがめくれたり、飛散する可能性がありますので定期的な確認が必要です。
- 本説明書に掲載している施工方法は、施工する場所により施工できない場合もありますので、施工や雑草防止を保証するものではありません。
- 植物によってはシートを突き破ったり、シート端部や重ね部から発芽することがあります。
- 製品保管時は直射日光、著しい湿気、荷重を避け室温未開封状態で保管してください。
- 本製品の廃棄について、事業者が廃棄する場合は産業廃棄物として、一般家庭で廃棄する場合はお住まいの自治体の区分に従い、適正に廃棄してください。